

目的 職業は生活の基盤であり、近年、都市において、職業が多様化する傾向にあるといわれている。才28回、本学会で職業別食生活について発表した。今回、更に数種の職種を加え、食事の状況、嗜好、肥満度、食生活への関心度を検討したので報告する。

方法 対象は教員（小学校、高校）、栄養士、調理師、看護婦、保母、警察官、オフィスレディー、商社員、事務（公務員、一般）、セールスマン、公立研究所員、高熱、重労働者、主婦、学生（定時制高校生、看護学生、栄養専門学生）など計1984名について、食事調査をアンケート方式で実施した。調査時期は昭和52年7月～9月、調査内容は、朝食、昼食、夕食の食事状況、固食の摂取頻度と内容、アルコール摂取頻度、嗜好、食生活関心度、身長と体重から肥満についても検討した。

結果 1. 朝食欠食率の高い職種は、看護婦、定時制高校生に多く、欠食率の少ないものは、栄養士、主婦であった。朝食内容では、パン食献立は、オフィスレディー、商社員、看護婦に多く、米食献立は、調理師、高熱重労働者、セールスマンに多かった。2. 夕食を外食する職種は、警察官、商社員、看護婦に多かった。3. アルコールの飲用率は、高熱重労働者、商社員が高かった。4. 料理の味づけは、高熱重労働者、警察官で、濃い味が好まれ、栄養士、教員で薄味が好まれた。5. 献立に対する好みは、和風献立は、警察官、主婦で好まれ、洋風献立は教員、オフィスレディー、栄養専門学生に好まれた。6. 食生活の関心度は、看護学生、栄養士、調理師に高く、定時制高校生に低かった。